

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K20717

研究課題名(和文)朝鮮通信使行列図の再解釈 「虚構」を含む史資料の歴史的位置

研究課題名(英文) Reinterpreting the Korean Embassy Procession Picture: Historical Context of Historical Materials Including "Fiction"

研究代表者

池内 敏 (IKEUCHI, Satoshi)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90240861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代の朝鮮通信使行列を描いた図は、国内外に少なからず残されている。それらは、本当の朝鮮通信使の行列をそのまま写實的に描いたもののように見えながら、いくつかの虚構を含むこともまた指摘されてきた。なかでも神戸市立博物館所蔵「朝鮮人来朝行列図」をめぐっては、1990年代の黒田日出男およびロナルド・トビにより、江戸の天下祭の仮装行列を描いたものとして解釈され、それが通説的な位置を占めて今日に至る。本研究は、当該図および類本を朝鮮通信使行列図の全体的傾向のなかに置き直して再検討した。神戸市立博物館所蔵「朝鮮人来朝行列図」は、祭礼行列図を参考にして朝鮮通信使行列を描いた図であることを確定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

神戸市立博物館所蔵「朝鮮人来朝行列図」は、そこに朝鮮通信使行列にはあり得ない要素が数々あることをもって、江戸の天下祭の仮装行列を描いたものだとする主張が1990年代に発表され、今日、これが通説となっている。本研究は、動画を静止画に書き留める技術が無かった江戸時代には、朝鮮通信使行列を徹底して写實的に描くことは困難であり、祭礼行列の要素を借りながら朝鮮通信使行列を描かざるをえなかったことを明らかにした。近世絵画に含まれる虚構は、当該図の写実性・真実性を担保するものとして導入されたと理解する方が良い。本研究は、そうした絵画資料を歴史分析の素材として用いる際の視点の転換を促す意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：During the Edo period, there are numerous extant drawings depicting the Korean Embassy Procession, both within Japan and abroad. While these drawings may appear to faithfully depict the actual procession of the Korean envoys, it has been pointed out that they also contain certain fictional elements. Among them, the "Korean Envoys' Procession Picture" housed in the Kobe City Museum has been interpreted by Hideo Kuroda and Ronald Toby in the 1990s as a depiction of the costume procession during the Edo Tenka Matsuri (Great Feudal Lord Festival). This interpretation has become the prevailing view to this day. This study reevaluates the aforementioned picture and similar works within the overall trends of Korean Embassy Procession pictures. It has been confirmed that the "Korean Envoys' Procession Picture" in the Kobe City Museum is a representation of the Korean Embassy Procession based on reference to festival procession pictures.

研究分野：近世日朝関係史

キーワード：朝鮮通信使 行列図 画像 近世

挑戦的研究(萌芽)

研究課題「朝鮮通信使行列図の再解釈 「虚構」を含む史資料の歴史的位置」

1. 研究開始当初の背景

現代を生きる人びとが「虚構」と感じることももの、前近代の人びとにとっても同様であったとは限らない。この点の再検討は、これまで壽お式として疑われず、また連綿として継承されてきた資料解釈に方法論 しながら一次史料をこそ重視し、編纂された二次資料の評価を低く見積もってきた研究方法にも根本的な再考を求めるものとなる。本研究は資料に見える「虚構」を簡単に退けるような解釈をするのではなく、「虚構」をも含み込みながら既存の歴史像を組み替える試みの一環である。

それは本研究の中心課題でもある画像分析に即していえば、江戸時代に描かれた写生図のような画像が、徹底的に写実のようでありながら、しかし例えば動画を精密な制止画像として描き留める技術など存在しない時代には、いかに努力を重ねようとも実態をそのまま写生することは困難である。本研究は、まずは朝鮮通信使行列図を素材にして、動画を静止画として描こうとした近世画像のなかに散りばめられた虚構をどのように評価するのか、検討しようと考えた。他方、文献資料中にも虚構(エピソード類)があるのが常だから、これらについても検討対象を広げられればと考えた。

2. 研究の目的

200人を超える朝鮮人の行列を、カメラもビデオも無い江戸時代に、現場で観察して即興で正確な図を描くということはおおよそ考えがたい。眼前の行列をそのままに静止画像に置き換えることは誰にとっても不可能であり、類似する図版を参照して想像を交えながら行列図を完成させたことを想定せざるを得ない。描かれた行列図は「虚構」を組み込みながら成立し、そのような「虚構」を含み込んだ画像を当時の人びとは事実として受け入れた。

本研究で主として再検討を試みる対象となるのは神戸市立博物館「朝鮮人来朝行列図」である。この図は、朝鮮通信使行列を写実的に描いた図として1970年代末に紹介されて広く知られるようになり、のち1990年代になって黒田日出男およびロナルド・トビによって江戸の天下祭りの唐人行列図(仮想行列)であると解釈され、それが現在の通説的理解となっている。本研究は、この神戸市立博物館「朝鮮人来朝行列図」をどのように理解するかを軸にして、朝鮮通信使行列を描いた数々の画像を比較検討しながら、朝鮮通信使行列図に含まれる虚構の歴史の意味を再考しようとするものである。

3. 研究の方法

これまで朝鮮通信使行列図はほとんど批判的な分析を受けることなく、「本当の」行列を写実的に描いたものと素朴に考えられてきた。そうした現状に対し、行列図にはどのような「作為」や「虚構」が含まれているかを、画像のパーツひとつひとつに分け入って些細な比較検討を試みる。

その際に、まずはインターネットや刊行された図録類に見える朝鮮通信使行列図を収集し、また可能な限り原本調査を行って行列図そのものの画像を直に検討する。とりわけ神戸市立博物館「朝鮮人来朝行列図」の類本については可能な限り原本調査を行い、類本館の比較検討を行う。

また朝鮮人来朝行列図にかかわる先行研究を参照しながら、およそ朝鮮人が近世絵画に描かれ始めた初見例として知られる洛中洛外図屏風から始めて、国内外各地に所在する朝鮮通信使行列図を実見する。行列図には肉筆画もあれば印刷頒布されたものもあり、印刷物には一枚物もあれば冊子体のものである。こうした形態別の画像における比較検討も行き、さらに文字資料に見える行列図の構成と画面構成との比較検討をも併せ行う。

4. 研究成果

数々の朝鮮通信使行列図の画像収集および原本調査を行う過程で、朝鮮通信使行列図の歴史的性格について以下のような理解に到達した。動画を静止画に書き留める技術が無かった江戸時代には、朝鮮通信使行列を徹底して写実的に描くことは困難であり、祭礼行列の要素を借りながら朝鮮通信使行列を描かざるをえなかったことを明らかにした。近世絵画に含まれる虚構は、当該図の写実性・真実性を担保するものとして導入されたと理解する方が良い。本研究は、そうした絵画資料を歴史分析の素材として用いる際の視点の転換を促す意義を持つ。

そうした大筋としての研究成果とは別に、いくつかの大切な発見があった。そのひとつは、大英博物館所蔵の延享5年朝鮮通信使行列図と大阪府立中之島図書館所蔵の延享5年朝鮮通信使行列図が双子であることを発見したことである。その意義については論考「ふたつの延享五年（一七四八）朝鮮信使行列図」（『訳官使・通信使とその周辺』4、2021年）で論じた。また、神戸市立博物館「朝鮮人来朝行列図」については論考「朝鮮通信使来朝行列図を読み直す」（『訳官使・通信使とその周辺』7、2023年）で子細に論じ、黒田・トビ説の成り立ちがたいことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池内敏	4. 巻 7
2. 論文標題 「朝鮮通信使来朝行列図」を読み直す	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 19 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 4
2. 論文標題 ふたつの延享五年（一七四八）朝鮮信使行列図	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 61 - 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 神戸市博本『朝鮮通信使来朝図』は祭礼図なのか？ 朝鮮通信使行列図を読む
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会（第12回）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 朝鮮通信使行列図を読む
3. 学会等名 第八回「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------